

みんなの広場

みんなのギャラリー



▲中心市街地を活性化するショールームが銀座商店街に新規にオープンしました。名前は「野老澤町造商店」、通称「まちそう」です。ぜひ一度お立ち寄りください。6月1日(日)野老澤町造商店(元町) (撮影/市民カメラマン・松崎 満)



▲何歳になっても、自分の歯はとても大切です。歯科検診や歯みがき指導、楽しいイベントも行われた「歯の衛生週間行事」。6月8日(日)保健センター (撮影/市民カメラマン・塩野入好文)

新たに4名の市民カメラマンが活躍しています！
6月から、次の4名の方(敬称略)が、市のイベントや行事などで活躍しています。
●岩田洋一(並木在住) ●塩野入好文(けやき台在住) ●西田憲正(北秋津在住) ●木村清貴(山口在住)

番外・裕沢寄席 柳瀬亭



▲笑う門には福来る。昨年真打ちに昇進した所沢市出身の柳家高之助さんは「三人無筆」の落語。紙切りの第一人者、林家正楽さんは、子どもがリクエストした「電車」も、わずか数分で完成させます。会場には笑い声があふれていました。5月31日(出)柳瀬公民館



▲放駒部屋の力士が稽古をつけてくれました。男の子も女の子も力が入った名勝負を繰り広げた「わんぱく相撲大会所沢場所」。6月8日(日)市民体育館 (撮影/市民カメラマン・西田憲正、木村清貴)

歴史再発見
ところざわの文化財

富士山信仰と富士塚 ～北秋津富士塚～

美しい裾野を引き、その優美な風貌から日本の象徴として海外でも広く知られている富士山。一方で、古来より霊峰といわれ、神聖な山として信仰の対象ともなっており、江戸時代には富士山の登拝が庶民の間でも広く行われるようになりました。ただし、多くの時間と経費を要するため、毎年続けて行けるものではありませんでした。そこで村内では「講」と呼ばれる同じ目的をもつ者の集団をつくり、代参といって代表者が登拝したり、各地に富士塚と呼ばれる土を盛って造られた人工の小さな山を築き、富士山に行くことができない人にも擬似的に富士山の登拝を体験できるようにしました。



北秋津の新井家は、かつて富士講の流派のひとつ官位講の先達(リーダー)を務め、邸内には小規模な富士塚が築かれています。所沢市の有形民俗文化財にも指定されており、塚の中腹には明治18年に富士登山64度の大願成就を記念した石碑などが見られます。当時この地域における富士山に対する信仰の厚さを示しています。現在でも7月1日には、本物の富士山同様「山開き」の行事が行われています。問い合わせ 文化財保護課(☎2998-9253・FAX2998-9128)

みんなで楽しく
エコ活動!

環境レポーター「エコちゃん」が行く

みんなでふるさとの川をきれいにしましょう
地域やボランティアの方、中学校の生徒たちなどが、川を再生する活動に取り組んでいます。



- ◆どんなことをしているの?
年に数回河川や河川敷の清掃を行ったり、河川敷の野草保全、観察会や散策会を行ったりしています。なかには、河川の浄化に関する研修会・講演会等を開催している団体・グループもあります。
- ◆団体やグループはどのくらいあるの?
市内では、約10団体が活動しています。

★みなさんにお願いです★

私たちの暮らしのなかの何気ない行動が、川の水質汚染につながっています。毎日の暮らしのなかでちょっとした工夫をすることで、家庭からの汚れた排水を減らすことができます。一例を紹介します。

- ①台所での生ごみは……
目の細かい水切りネットを三角コーナーなどに設置し、調理くずを流さないようにしましょう。
- ②食器やフライパン、鍋などの汚れは……
不要な紙や布などで拭き取ってから洗います。
- ③お風呂の残り湯は……
清掃や洗濯などに使しましょう。
- ④米のとぎ汁は……
できるだけ流さないで、植木や鉢植え・畑などにまいてあげましょう。



皆さんからの写真や投稿をお待ちしています!

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント(約60字)を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『貴重な体験』▶文章は添削あり▶締め切りは7月9日(水)必着▶掲載者には記念品を進呈◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木1-11所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール(アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp)でご応募ください。

はつらつ 野老っ子



いまでも現役の箏曲家として活躍する鈴木いね子さんは、今年白寿(数え年で99歳)を迎えます。明治43年に、11番目の子として誕生した鈴木さんは、19歳のとき福岡で筑紫歌都子さんという箏曲家と出会い、箏の手ほどきを受けました。鈴木さんは筑紫さんの印象を振り返り「姉と同じ名前でも身近に感じ、いつもくっついていました。さっぱりとした性格で、箏を弾く鮮やかな腕前に感激した」と話してくれました。実の娘で後継者でもある仲林光子さんは「感情が表に現れる筑紫さんの作風は、母の楽曲や演奏に大きな影響を与えています」と説明してくれました。東京に移ってからは作曲家・箏曲家の宮城道雄氏に師事し、昭和32年、独自に考案した『階名教授法』が高名な音楽学者の田辺尚雄氏に認められ、箏の教授所として『箏曲七声楽院』を開設しました。『階名教授法』とは、箏の楽譜として使われる弦名譜(縦書きの漢数字)をドレミファの音に替えて学ぶ方法です。これにより、正しく音程を捉え音楽性が高まります。こ

白寿で奏でる箏の音色

鈴木 いね子さん(東狭山ヶ丘在住)

とあるごとに「階名で、音で覚えなさい」と鈴木さんは言い続けています。鈴木さんは、箏の音色が好きで、和楽器の魅力を子どもたちに伝えたいと願っています。白寿を迎えた今でも、耳はよく聞こえ、箏の音色に癒されるそうです。箏の前に座ると自然と指が弦を弾きます。平成15年(2003年)93歳のときに、自らの作品集CD『祈り』を発表し、現在も稽古と努力を忘れません。



演奏会に向け練習する鈴木さん

そんな鈴木さんは、演奏会を9月に控え準備に余念がありません。その演奏会は題して『鈴木いね子白寿記念演奏会～春を待つ日々～』、9月7日(日)午後2時～・日本橋公会堂(◎入場料が必要)です。詳細は仲林☎2921-2687)で開催されます。鈴木さんは、これからもご自身が大好きな箏の音色を奏で、いつまでもお元気に活躍されることでしょう。

おむすびといえは、具は梅干し、おかか、鮭などですが、我が家は卵を入れています。家で味付けをして卵を作り、これを具にします。息子が小さいころからの、我が家のおむすびの味です。

三人の息子が結婚して間もなく、お嫁さんにおむすびを作ってくれと頼んだとき、具は卵と言った三人のお嫁さんは皆びっくりしたそうです。卵にだし汁を入れたり、砂糖を入れたり、作り方がわからず困ったようですが、いまではすっかり上手になりました。おむすびの具と言えは必ず卵が加わるということです。こうして味が伝わることをうれしく思います。

北秋津・比留間澄枝



幸せ・なごみ
こがし町・宮下しえ

4～5年前、我々のグループは20代のケニア女性と交流がありました。彼女が帰国するというので、昼食を兼ねて送別会をしました。テーブルには大きなおむすびが並び、から揚げ、サラダとにぎやかでした。突然、彼女はカメラを取り出し、故郷への土産と言って、おにぎりの写真を何枚も撮りました。日本人(特に我々の年代)にとって、おむすびは電気水と同じように、あたりまえにあるもの。そして心と身体(腹)を満たしてくれるすべれもの。彼女にはどう映ったのでしょうか。今アフリカ各地では、食糧不足が続いているようです。帰国した彼女やまわりの人々、おむすびのような幸せな食料を得られているのでしょうか。現実には遠い日本の空から、何時間かで行ける地球の裏側の彼女らの幸せを祈る気持ちです。

若狭・井上美恵子

「おにぎりの」と「おむすび」同じ言葉なのか違うのか?辞書を見ると「おにぎりはにぎりめし、おむすび、おむすびはにぎりめし。」

ある日、納得できぬ答えに出会った。それは、絶筆になった江戸風俗研究家の杉浦日向子さんの本に書いてあった。「おにぎりは手を握った形で楕円か丸に近い形。」「おむすび」は文を結んだときの形で三角形。つまり形が違うのだ。

私の気持ち杉浦さんに伝わり、書き残されたかと思いたい。「おにぎり」や「おむすび」を食べるたびに、杉浦さんのお顔が浮かんでくる。

